

# 第22期事業報告書

平成18年3月1日から平成19年2月28日まで

## Heart Warming



株式会社メディカルー光

**JASDAQ**

証券コード 3353

## 経営理念

メディカル光グループは、「良質の医療サービスをより多くの人に提供する」という理念の下、**医療と生活を取り巻く市場ニーズに多角的に応える事業を推進してまいります。**

当社グループは、医療サービスに特化した独自性の高いビジネスモデルを展開しております。

主力の調剤薬局事業は、平成18年5月にM&Aにて平安薬局株式会社と有限会社メデコアの株式を取得したことにより、神奈川県内の3店舗が加わりました。併せて、3店舗の新規出店を行ったことにより、期末の調剤店舗数は67店舗となりました。

医薬品卸事業は、平成18年3月に分社化した株式会社メディシンー光が、市場拡大が進むジェネリック医薬品の販路を拡大したことにより、好調に推移いたしました。

介護事業は、平成17年10月に株式会社ヘルスケアー光を設立し、高齢化の進展による高齢者住宅市場の拡大が見込まれるなか、有料老人ホームの開発に取り組んでまいりました。また、同社では、新たな医療ビジネスの展開として、平成18年11月、三重県津市にメディカルモールを開設いたしました。

不動産事業は、病院施設の賃貸による収益確保を図るとともに、保有資産の有効活用を図るため、ホテル施設を建設し、平成19年1月、ビジネスホテルチェーンに賃貸を開始いたしました。

今後、当社グループは医療・介護を融合したビジネスモデルを構築し、「医療・介護の総合サービス企業」として持続的・安定的な成長を図ってまいります。



## CONTENTS

- 経営理念…………… 1
- 株主の皆様へ…………… 2
- 事業戦略…………… 3
- 出店戦略…………… 4
- 介護事業の強化…………… 5
- ビジネスモデル…………… 6
- トピックス…………… 7
- 営業の概況…………… 9
- 業績ハイライト…………… 10
- 連結財務諸表…………… 11
- 単体財務諸表…………… 13
- 会社の概要…………… 14



株主の皆様には、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第22期（平成18年3月1日～平成19年2月28日）の事業報告書をお届けし、営業の概況等をご報告させていただきます。

当社は、処方箋の受け皿となる調剤薬局を主たる事業として展開しております。

医薬分業は、医療の一翼を担うシステムとして定着し、緩やかな拡大傾向で推移しておりますが、業界は成熟期を迎え、収益構造の変化、競争の激化により経営環境は一層の厳しさを増しております。当社は、採算性を重視した店舗展開を進めるとともに、M&A案件には積極的に対応し、規模の拡大を図ってまいります。

医療界を取り巻く環境は、医療費の適正化に向けた制度改革が進められており、医療機関は、変革に対応できる経営基盤の確立が急務となっております。また、高齢社会の進展に伴って、社会全体のインフラ整備が求められております。

このような環境下にあって当社は、医療分野に特化した事業展開を行い、調剤薬局事業で培ったノウハウ、ネットワークを活かし、有料老人ホーム、メディカルモールの開設を推進してまいります。

当社は、医療・介護産業に関わる多くのメニューを揃えた、「医療・介護の総合サービス企業」を目指し、市場ニーズを的確に把握、分析を行い、質の高いサービスの提供に努め、持続的かつ安定的な成長を図ってまいります。

株主ならびに投資家の皆様には、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年5月

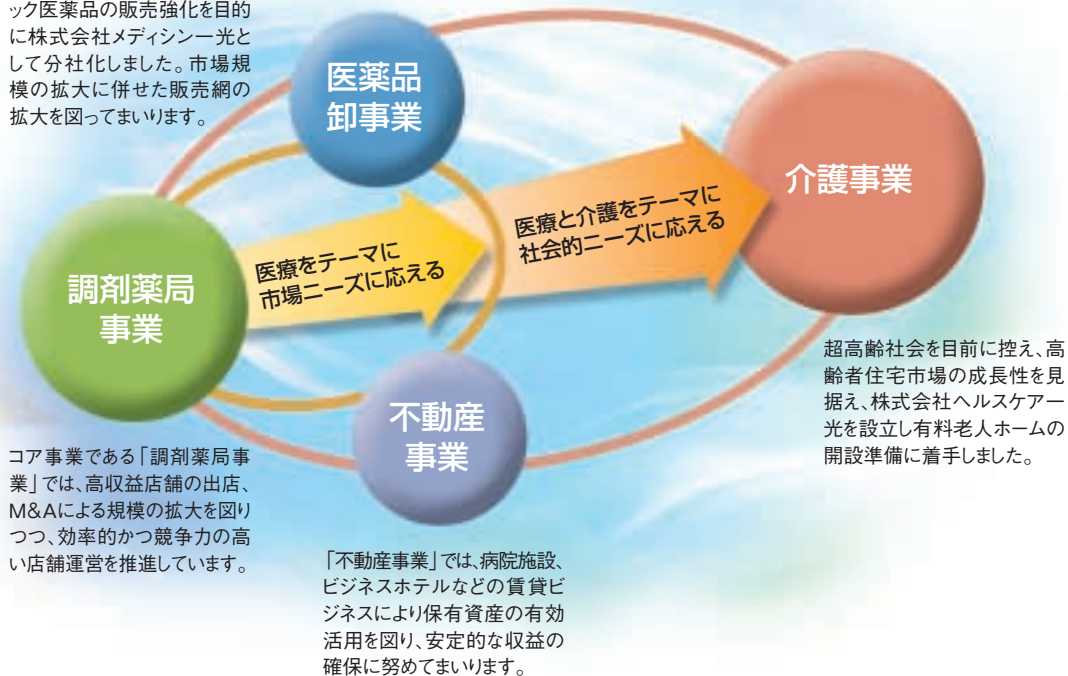
代表取締役社長 南野 利久

## 事業戦略

当社は、調剤薬局事業をコア事業と位置付けて市場拡大を図るとともに、周辺ビジネスとして、ジェネリック医薬品の販売を目的とした医薬品卸事業、有料老人ホームの運営を目的とした介護事業、医療機関等への不動産賃貸事業、医療モール事業を進め、医療・介護のトータルサポートを目指し事業展開を行っています。

### 医療と介護の融合を目指した 事業体制とシナジーの追求

「医薬品卸事業」は、ジェネリック医薬品の販売強化を目的に株式会社メディシー光として分社しました。市場規模の拡大に併せた販売網の拡大を図ってまいります。

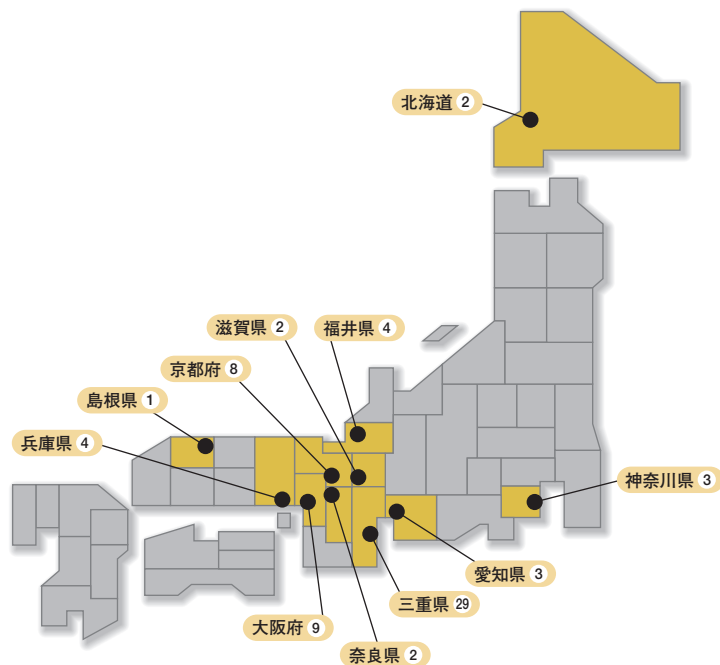


## 出店戦略（調剤薬局事業）

### 採算性と持続性を重視した計画的な出店

わが国の医薬分業率は、平成18年度上期（平成18年3月～8月の平均）に54.8%まで伸びました。しかし、伸びは緩やかな状況に変化しています。また、平成18年4月の診療報酬改定では、調剤報酬引下げと薬価改正が行われたことにより、調剤薬局業界の経営環境は一層の厳しさを増しております。

そのようななか、当社は「医療サービスの質的向上」と「経営の効率化」を追求しつつ、採算性と持続性を重視した計画的な出店を進めてまいります。また、M&A案件を含めた店舗網の拡大に積極的に対応し、事業規模の拡大を図ってまいります。



当社が展開する調剤薬局チェーン「フラワー薬局」のロゴマークPHARMACY FLOWER 人の心を優しく癒してくれる“花”のような薬局をイメージしています。

	H17.2期	H18.2期	H19.2期
出店数	6	6	6
退店数	0	3	0
期末店舗数	58	61	67

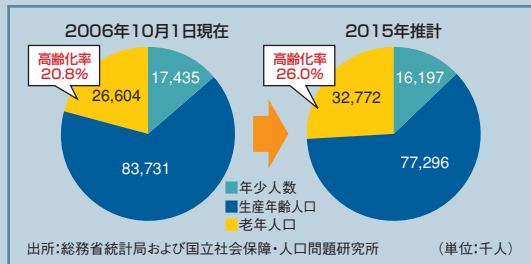
## 介護事業の強化

当社は、調剤薬局事業で培ったノウハウとネットワークを活用し、新たな事業展開として有料老人ホームの運営を行う介護事業を推進してまいります。

### 高齢化の進展

日本の人口構造は、少子高齢化の進展によって大きな変化が生じています。そのなかでも65歳以上の高齢者人口の増加は著しく、超高齢社会（高齢化率21%以上）は目前に迫っています。このような環境変化に対応するため、高齢者住宅市場を中心としたマーケットが急速に拡大しています。

#### ■高齢化の進展



#### ■有料老人ホームの施設数



### 当社の戦略

当社が進める有料老人ホームのコンセプトは「医・食・住・遊」。医療依存度の高い方でも安心して暮らすことのできるよう、医療機関、介護事業者との連携強化を図ります。また、日常生活に欠かすことのできない、美味しい食事と楽しく豊かな生活を提供する施設を展開していきます。

#### 〈高齢者住宅の将来展望〉

- 供給戸数の増加
- 入居者ニーズの多様化
- 医療法人の参入による競争激化

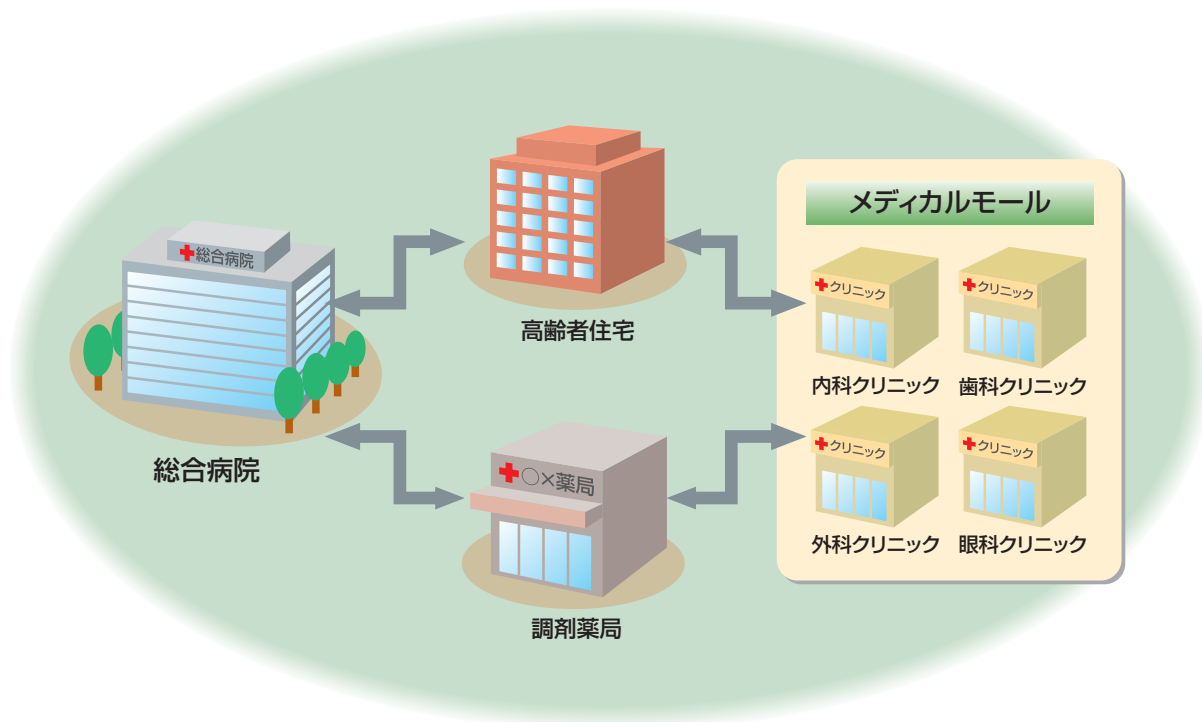
入居希望者の望む **医・食・住・遊** の提供が必要

#### 当社の戦略

- 医療と介護の連携により、医療依存度の高い高齢者でも入居可能
- 安全かつ美味しい食事と快適な住空間を提供

## 当社が展開する医療・介護のビジネスモデル

当社が目指すビジネスモデルは、医療・調剤・介護の集合体。利便性、付加価値を追求したシナジー効果によって、医療を取り巻く市場ニーズに応える良質なサービスを提供し、さらなる業容の拡大と収益力の強化を図ってまいります。



### 当期において調剤薬局は6店舗増加

平成18年5月、平安薬局株式会社と有限会社メデコア両社の株式を取得したことにより、神奈川県下の3店舗（平安薬局小田原店・二宮店・元町店）が加わりました。また、当期はフラワー薬局高槻店（大阪府）、三国店（福井県）、太閤店（愛知県）を新規出店し、当期末の店舗数は67店舗となりました。



### 市場拡大に併せて販路拡大

ジェネリック医薬品は、医療費削減の手段として使用促進が図られています。

平成18年4月の診療報酬改定では、処方箋様式に「ジェネリック医薬品への変更可」のチェック欄が新設されるなど、需要拡大が進んでいます。

当社は、これまでの医薬品卸事業を分社化し、平成18年3月、株式会社メディシンー光を設立しました。

現在、中部地区の総合病院、クリニックを中心に販路を拡大しています。



### 介護事業の本格稼働に向けて、有料老人ホーム開設準備に着手

超高齢社会を目前に控えて、高齢者住宅市場の拡大が見込まれるなか、当社は、有料老人ホームの開設に向けた準備に着手しました。

今後グループとして、3年間で20施設の開設を計画しています。

当社は、介護事業を成長エンジンの増設と位置付けて最重点事業として推進しています。





## メディカルモール1号施設がオープン

病診連携の推進、開業予備軍といわれる若い医師の開業志向が高まりを見せるなか、地域医療の新たな担い手として、メディカルモールが注目されています。

当社は、平成18年11月、三重県津市にある総合病院前の商業集積地に1号施設となるメディカルモールを開設しました。

今後も地域の医療に対するニーズを的確に把握し、開発を進めていきます。



## 保有資産の有効活用としてホテル賃貸を開始

不動産事業として、保有資産の有効活用を目的として、三重県津市にビジネスホテルを建築し、一括賃貸する契約をルートインジャパン株式会社と締結しました。

平成19年1月より賃貸を開始し、長期的な収益を見込んでいます。



## ハウス食品株式会社・イオン株式会社第三者割当による新株式を発行

平成19年5月10日、第三者割当による新株式の発行を行い、360百万円の資金調達を行いました。調達した資金は、調剤薬局事業の出店および有料老人ホームの建設資金に充当し、医療・介護ビジネスのさらなる事業拡大を図っていきます。

ハウス食品株式会社とは、今後、高齢者の生活実態を相互に研究、検討し、高齢者の充実した生活環境の整備に対する新たな可能性を検討していくことといたしました。

### 営業の概況

当社の主力とする調剤薬局業界におきましては、引き続き市場は拡大を続けているものの、緩やかな伸びで推移しております。また、薬価改正および調剤報酬改定の実施など、医療費の適正化を目的とした制度改革が続いており、薬局経営への影響は一層の厳しさを増しております。

当社の事業であります調剤薬局事業におきましては、医薬分業率の低い関西、中部地区を主戦場とした出店を進めるとともに、M&Aを推進したことによりまして、当期において6店舗が増加いたしました。平成18年5月には、神奈川県にある平安薬局株式会社、有限会社メデコアの株式を取得したことにより3店舗がグループ入りしました。また、フラワー薬局は、5月に高槻店（大阪府）、三国店（福井県）、7月には太閤店（愛知県）を新規出店いたしました。

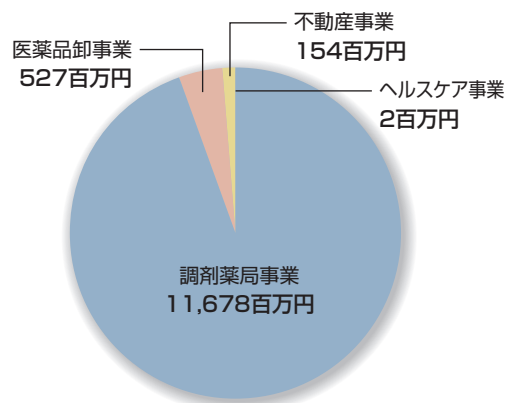
医薬品卸事業につきましては、平成18年3月に分社化した株式会社メディシンー光が、市場拡大を続けるジェネリック医薬品を三重県、岐阜県の医療機関に販売促進したことにより、売上の増加を図ることができました。

不動産事業につきましては、病院賃貸を主として、安定した収益を維持し、堅調に推移いたしました。また、平成19年1月には、三重県津市に所有する不動産にホテルを建設し、大手ビジネスホテルチェーンに賃貸を開始いたしました。

新規事業として平成17年10月に設立しました株式会社ヘルスケアー光によって、有料老人ホームの開設準備に着手いたしました。また、新たな医療ビジネスの構築を目指すなかで、平成18年11月、三重県津市にメディカルモールの1号店を開店いたしました。

以上の結果、当期の連結業績は、売上高は12,362百万円（前期単独比17.1%増）、経常利益は395百万円（同7.9%増）となり、増収増益を確保することができました。また、減損会計適用年度にあたり、減損損失133百万円等を計上した結果、当期純利益は46百万円となりました。

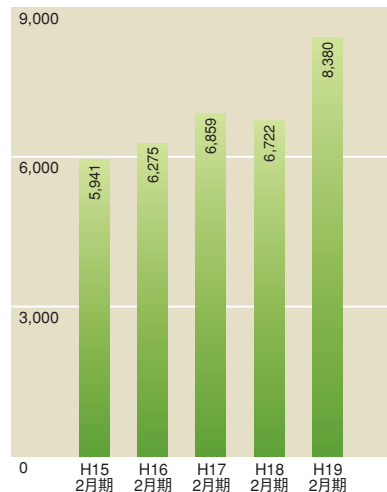
事業別売上高



# 業績ハイライト

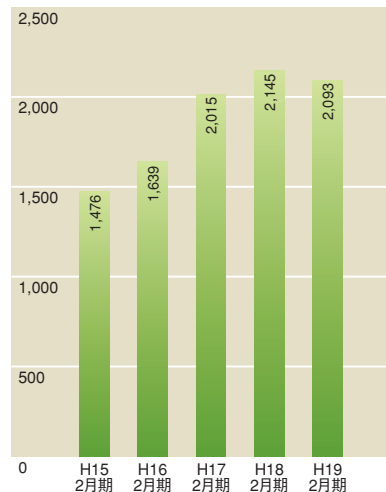
## 総資産

(百万円)



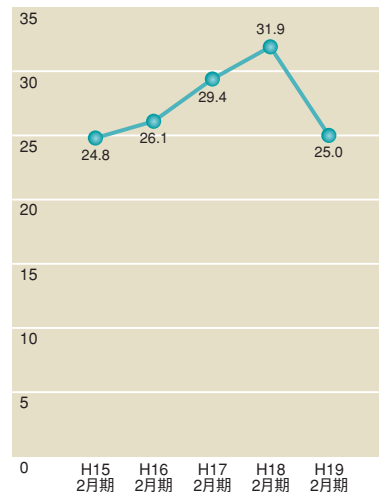
## 純資産

(百万円)



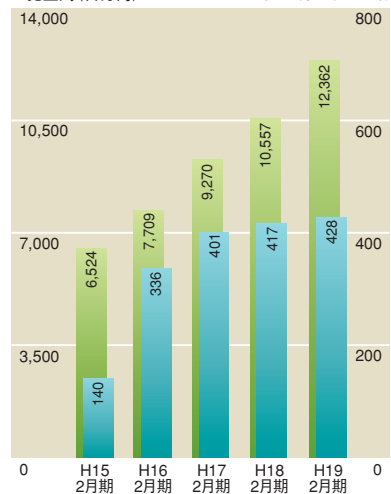
## 純資産比率

(%)



## 売上高・営業利益

■売上高(百万円) ■営業利益(百万円)



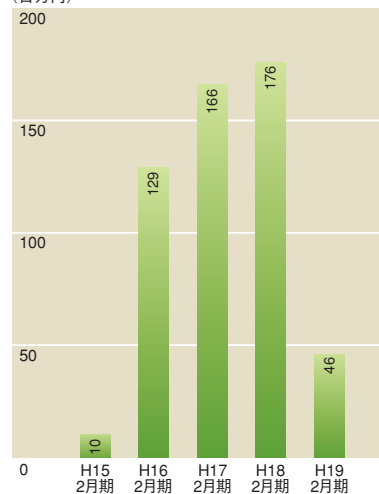
## 経常利益・売上高経常利益率

■経常利益(百万円) ●売上高経常利益率(%)



## 当期純利益

(百万円)



・H15.2月期からH18.2月期までは単体ベースで表示されています。

# 連結財務諸表

## ■連結貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

現金および預金・売掛金が増加しています。現預金の増加は、今後のM&Aや新規事業投資に備えています。

新店舗等の建設費に加え、医療モールやホテル建設への投資を行ったことにより有形固定資産が増加しています。また、M&A等による子会社の株式取得により無形固定資産が増加しています。

売上増加(仕入増加)により、買掛金が増加しています。

投資資金を長期借入金で調達したため固定負債が増加しています。

減損損失等の特別損失を計上したことにより純資産が減少しています。

科目	第22期(当期) 平成19年2月28日現在	第21期(前期/単体) 平成18年2月28日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>3,215</b>	<b>2,505</b>
現金及び預金	1,118	773
売掛金	1,428	1,143
商品	537	476
その他	130	112
貸倒引当金	△0	△0
<b>固定資産</b>	<b>5,164</b>	<b>4,217</b>
有形固定資産	3,745	3,431
建物及び構築物	2,010	1,581
土地	1,590	1,660
その他	144	189
無形固定資産	620	67
投資その他の資産	798	718
資産合計	8,380	6,722
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	<b>3,362</b>	<b>2,734</b>
買掛金	2,048	1,446
短期借入金	30	150
1年内返済予定長期借入金	940	705
その他	342	432
<b>固定負債</b>	<b>2,924</b>	<b>1,843</b>
社債	500	500
長期借入金	2,161	1,144
その他	262	198
負債合計	6,286	4,577
<b>資本の部</b>		
資本金	—	737
資本剰余金	—	657
利益剰余金	—	743
その他有価証券評価差額金	—	7
資本合計	—	2,145
負債・資本合計	—	6,722
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	<b>2,084</b>	<b>—</b>
資本金	737	—
資本剰余金	657	—
利益剰余金	756	—
自己株式	△66	—
<b>評価・換算差額等</b>	<b>9</b>	<b>—</b>
その他有価証券評価差額金	9	—
純資産合計	2,093	—
負債・純資産合計	8,380	—

## ■連結損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当期)	第21期(前期/単体)
	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
売上高	12,362	10,557
売上原価	11,232	9,490
売上総利益	1,130	1,067
販売費及び一般管理費	701	650
営業利益	428	417
営業外収益	48	8
営業外費用	81	58
経常利益	395	366
特別利益	17	51
特別損失	174	78
税金等調整前当期純利益	239	339
法人税、住民税及び事業税	218	189
法人税等調整額	△25	△26
当期純利益	46	176
前期繰越利益	—	305
当期末処分利益	—	481

## ■連結キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当期)	第21期(前期/単体)
	平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	515	605
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,215	△423
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,033	△607
現金及び現金同等物の増減額	332	△425
現金及び現金同等物の期首残高	773	1,199
新規連結子会社の現金及び現金同等物の中間期首残高	11	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,118	773

営業活動によるキャッシュ・フローは、減価償却費等の増加により515百万円の増加となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得および子会社等の株式取得により、1,215百万円の支出増となりました。財務キャッシュ・フローは投資資金を長期借入金で調達したことにより、1,033百万円の増加となりました。

売上高は、調剤薬局事業の売上増加により前期比で17.1%増となりました。経常利益は、売上原価率が1.0%上昇しましたが、売上総利益率の低下を規模の拡大と経費率の低下でカバーできたため、29百万円増となりました。当期純利益は、減損損失と役員退職慰労金制度の廃止に伴う特別損失等を計上したことにより、46百万円となりました。

## ■連結株主資本等変動計算書 (平成18年3月1日から平成19年2月28日)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
前期末残高	737	657	743	—	2,137	7	7	2,145
当期変動額								
剰余金の配当			△32		△32		—	△32
連結子会社の増加による減少			0		0		—	0
当期純利益			46		46		—	46
自己株式の取得				△66	△66		—	△66
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					—	1	1	1
当期変動額合計	—	—	13	△66	△53	1	1	△51
当期末残高	737	657	756	△66	2,084	8	8	2,093

# 単体財務諸表

## ■貸借対照表(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当期) 平成19年2月28日現在	第21期(前期) 平成18年2月28日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	2,714	2,505
現金及び預金	884	773
売掛金	1,221	1,143
商品	493	476
その他	114	112
貸倒引当金	△0	△0
固定資産	5,296	4,217
有形固定資産	3,607	3,431
建物及び構築物	1,963	1,581
土地	1,563	1,660
その他	79	189
無形固定資産	62	67
投資その他の資産	1,627	718
資産合計	8,010	6,722
<b>負債の部</b>		
流動負債	3,012	2,734
買掛金	1,830	1,446
短期借入金	30	150
1年内返済予定長期借入金	940	705
その他	210	432
固定負債	2,897	1,843
社債	500	500
長期借入金	2,161	1,144
その他	235	198
負債合計	5,909	4,577
<b>資本の部</b>		
資本金	—	737
資本剰余金	—	657
利益剰余金	—	743
その他有価証券評価差額金	—	7
資本合計	—	2,145
負債・資本合計	—	6,722
<b>純資産の部</b>		
株主資本	2,092	—
資本金	737	—
資本剰余金	657	—
利益剰余金	764	—
自己株式	△66	—
評価・換算差額等	9	—
その他有価証券評価差額金	9	—
純資産合計	2,101	—
負債・純資産合計	8,010	—

## ■損益計算書(要約)

(単位:百万円)

科目	第22期(当期) 平成18年3月1日から 平成19年2月28日まで	第21期(前期) 平成17年3月1日から 平成18年2月28日まで
売上高	10,993	10,557
売上原価	10,129	9,490
売上総利益	863	1,067
販売費及び一般管理費	553	650
営業利益	310	417
営業外収益	114	8
営業外費用	81	58
経常利益	343	366
特別利益	17	51
特別損失	173	78
税引前当期純利益	187	339
法人税、住民税及び事業税	153	189
法人税等調整額	△18	△26
当期純利益	53	176
前期繰越利益	—	305
当期末処分利益	—	481

# 会社の概要

## 会社概要 (平成19年2月28日現在)

商号	株式会社メディカルー光
設立	昭和60年4月17日
本社所在地	三重県津市藤方501番地の62 059 (226) 1193 (代表)
資本金	7億3,700万円
従業員数	366名 上記従業員のほか、契約社員及び パート社員85名(1日8時間換算)
事業内容	調剤薬局事業/医薬品卸事業/ 不動産事業/介護事業

地域別店舗数	合計	67店舗			
北海道	2店舗	兵庫県	4店舗	愛知県	3店舗
福井県	4店舗	奈良県	2店舗	神奈川県	3店舗
京都府	8店舗	島根県	1店舗	三重県	29店舗
大阪府	9店舗	滋賀県	2店舗		

## 役員 (平成19年2月28日現在)

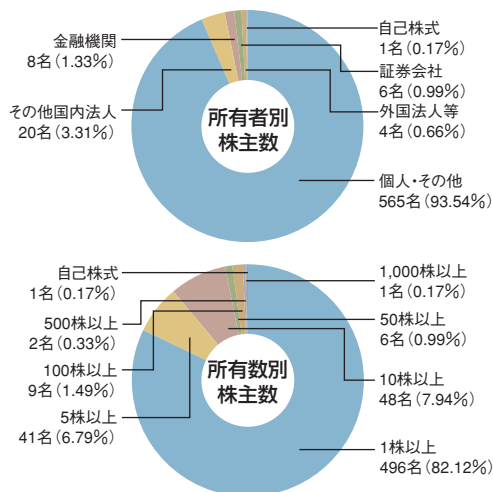
代表取締役社長	南野利久	取締役	澤宏紀
代表取締役専務取締役	西井文平	取締役	玉泉広子
代表取締役常務取締役	小黑博	常勤監査役	柴高且
取締役	小野和則	監査役	早水恵之
取締役	大西登志和	監査役	江口博明
取締役	櫻井利治	監査役	酒谷宜幸
取締役	廣枝了三		
取締役	安達佳之		

## 株式の状況 (平成19年2月28日現在)

1. 発行可能株式総数	30,000株
2. 発行済株式の総数	8,975株
3. 株主数	604名

## 大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
イオン株式会社	2,250	25.07
株式会社リオ	971	10.82
南野利久	906	10.09
メディカルー光従業員持株会	426	4.75
菊川 東	400	4.46
沢井製薬株式会社	350	3.90
エイチエスピーバンク ビーエルシー アカUNT アトランティス ジャパン グロース ファンド	319	3.55



## 株 主 メ モ

事業年度	3月1日から翌年2月末日
定時株主総会	5月
基準日	2月末日（その他必要があるときは予め公告いたします）
期末配当金受領株主確定日	2月末日
中間配当金受領株主確定日	8月31日
株主名簿管理人	株式会社だいこう証券ビジネス
同事務取扱場所	〒541-8583 大阪市中央区北浜二丁目4番6号 株式会社だいこう証券ビジネス 本社証券代行部 （お問合せ先） ☎ 0120-255-100 （各種手続用紙のご請求） ☎ 0120-351-465 <a href="http://www.daiko-sb.co.jp/">http://www.daiko-sb.co.jp/</a>
同取次所	株式会社だいこう証券ビジネス 各支社
公告の方法	電子公告 〈 <a href="http://www.m-ikkou.co.jp/">http://www.m-ikkou.co.jp/</a> 〉 ただし、電子公告を行うことができない場合、その他やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載します。
証券コード	3353